

## ビジネスインタビュー



(株)ファインテック

本木 敏彦  
社長

### 19年中に医療用刃物の製品化を目指す

オーダーメイドで産業用刃物の製造を手掛ける(株)ファインテックは、2019年中に外科手術用ハサミの製品化を目指している。4月に本社内に医療開発課を新設。専任社員3人を配置し、医師や大

学のバイオ技術研究者らと連携しながら、製品の企画に取り組み。「20nm(1nm//1mの10億分の1)まで刃先を尖らせる加工技術を持っている。現在目指しているのは2nm。このレベルが実現できると、再生医療分野にも対応できる」と意欲を見せる本木敏彦社長。医療分野への参入で、経営の安定化を図る考えた。

当社は半導体の金型部品メーカーだったが、リーマンショックの影響を受け、業態転換を迫られる。一部で製造していた刃物に着目し、切断の品質で他社との差別化を図ろうと考えた。「これまで培ってきた加工技術を売るという点は変わらない。品質を追求し、世界一のメーカーを目指していく」と攻めの姿勢で挑んだ。現在は主に電子部品メーカーと取り引きがあり、スマートフォンや自動車部品の切断にも使用されている。「通常は切断後、後処理が必要だが、一度で要望に応じた切断面を実現。後工程が不要なため、生産性の向上に寄与している」と胸を張る。

BCP対策の一環で3月、埼玉県に関東工場を新設。9月には名古屋に中部営業所を開設する予定で、岐阜で工場新設も計画中だという。「創立40周年には国内5拠点の展開を目指していきたい」と今後の展望を語った。

[本社] 〒832-0081 柳川市西浜武575番地1

[創業] 1985年6月 [資本金] 8,500万円

[売上高] 27億3000万円(18年10月期) [従業員] 277人

[事業内容] 産業用刃物の製造、各種研磨加工、金属超精密加工、精密金型部品の製造 [TEL] 0944-73-0877

(もとき・としひこ) 柳川市出身。1953年2月25日生まれの66歳。福岡県立大川工業(現・大川樟風)高校卒。趣味は歴史を学ぶこと